

山正ニュース

株式会社 山 正

本 社 ☎058-271-4468 岐阜県岐阜市市橋4-5-15
岐阜営業所 ☎058-271-4466 岐阜県岐阜市市橋4-5-15
可児営業所 ☎0574-62-5228 岐阜県可児市川合345-1
富山営業所 ☎0766-55-3882 富山県射水市大江207-1
飛騨営業所 ☎0577-72-4866 岐阜県高山市国府町村山857-2

2021年1月号 (通巻140号)

<https://www.yamasyou.com/>

§1 ウイズコロナ時代に

新年明けましておめでとうございます。2021年が、皆様方にとって良い年となるよう祈念します。

さて、1年前とはすっかり様変わりの世の中になってしまいました。新型コロナウイルス(Covid19)感染症の影響を受けた方々にはお見舞い申し上げます。改めて事態の1日も早い終息を願わずにはいられません。すべての物事を見直し、コロナとの共存を模索していく時代がしばらくは続くものと思われ、弊社においても感染予防をしながらの事業活動となります。お客様にはご迷惑にならないよう努めさせていただきますが、商品の確保や配送手配等々、はやめはやめの対応をお願いできればと思っております。

2020年の昨年は、7月の長雨・日照不足、8、9月の猛暑、局地的豪雨、頻繁な竜巻発生と、極端な天候不順に惑わされました。もはや「特別警報」が「特別」ではなくなりつつあります。病害虫の発生も多く、カメムシ類は稲作だけでなく、果樹や野菜まで広範囲での被害が認められました。また、岐阜県においては20数年ぶりにウンカの被害が多発し、坪枯れ、反枯れが多くみられ、晩稲の作柄に大きな影響が発生しました。世界的にみてもサバクトビバッタの異常発生や、豚熱、鳥インフルエンザの蔓延が見られており、地球温暖化による気候変動の影響と考えられますが、既存のデータや知識では対応できない、新たな病害虫対策、ウイルス対策、気象対策が求められる時代になってきました。

さて、農業業界は例年並みの実績でありましたが、新型コロナウイルスの影響により、原体供給不足、商品の欠品、配送の遅延、リードタイムの延長等々、その影響は今後もしばらくは、続くものと思われ、物流・作業が必要な農業現場では、すべてをリモートで行うことは不可能であり、効率化すべきIT技術と現場での活動をいかに融合させていくかが大切になってくると思います。

昨年11月のノーベル平和賞には「国連世界食糧計画(WFP)」が受賞しました。食に関する慈善活動が評価されたものですが、人類がもっと食糧安全保障に関心を持つべきとの警鐘と聞いています。人口増加と二酸化炭素排出による温暖化での食糧危機は、今のままでは本当にやってききます。世界はSDGs(持続可能な開発)を謳っておりますが、農業が持つ環境問題の解決、SDGsにおける役割は、今後もっと大きなものになります。

その中でも日本農業の可能性は無限大にあります。単位面積当たりの収穫量の最大化技術や、高品質の農産物の生産、スマート農業への取り組み等々、やるべきことはまだまだあります。また、農福連携における人材活用や新規の農業参入への支援もまだまだ増えていきます。また、フードバリューチェーンにおける鮮度保持資材や加工技術、輸送技術等々、6次産業化だけにとどまらず、他産業も巻き込んだ、技術開発はもっともっと進んでいくと思われ、我々も資材の提供だけでなく、農業を総合的にサポートする役割を果たしていくべきと思っております。

今年のキーワードは「協働:同じ目的のために各々の立場で協力して共に働くこと」です。しばらくは続くコロナ禍において、お客様に対しても、仕入先様に対しても、関係者皆様に対して、山正として出来ることを、眼に見える形でご提案していきます。本年は、従来の農薬、肥料、資材のご提供に加え「やさいプラントミニ(簡易式水耕栽培セット)」やドローンの活用、BS剤(バイオスティミュラント剤)のご提案、新規就農や新しい農産物への取り組み、GAPへの取り組み支援、生産物流通のご提案等々、行わせていただきます。本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願います。



2021年1月
株式会社 山正
代表取締役 堅田充宏

§ 2 センチュウ剤について

センチュウとは、線形動物門の総称で、地球上では多細胞生物の中では最も種類が多い(約3000種以上)とされています。地中だけでなく、海中や生物体内に住んでいる種類もあります。土の中にも無数の線虫がいて、植物に寄生するもの以外にも、細菌や糸状菌を食べたり、他のセンチュウを食べるものもいたりします。農作物に被害をもたらす有害なセンチュウとしては、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ、シストセンチュウの3種類が大半を占めております。



<ネグサレセンチュウ>

鋭い口で根を食害し、植物に根腐れを起こします。根腐れした植物は水分の吸収ができず、葉が萎れ、黄化してきます。寄生作物の範囲が広く、ダイコン、ジャガイモなど根菜類では商品価値を著しく低下させます。

<ネコブセンチュウ>

寄生した植物の根に特徴的なコブを作ります。葉菜類、果菜類、果樹、花き類等多くの作物に被害をもたらします。感染すると生育が劣化し、葉が小さくなり黄化します。暑い日中には萎れるようになり、着花が減少したり、果実の品質や収量が低下します。

<シストセンチュウ>

根の周辺にシストと呼ばれる卵の入れ物を形成します。ダイスやジャガイモなど特定の作物に寄生します。作物が植えられると卵が孵化して、幼虫が根に穴をあけて侵入し、栄養分を奪って生育を抑制します。シストは硬い殻に覆われており、環境変化に強く、数年から数十年生き延びることができ、伝染源となります。

<センチュウの防除方法>

1. 連作をしない。：連作により同じセンチュウの密度が高くなるので、連作は避けます。多発地では湛水(水を張る)して死滅させます。
2. 土壌消毒の実施：
太陽熱消毒：暑い時期に圃場にたっぷり灌水し、透明ポリマルチを土の表面に被せて、20～30日程度放置して消毒を行います。
薬剤による消毒：あまりにもひどい圃場では、テロンや DD など土壌消毒剤を使用します。
3. 抵抗植物の利用：
植物の中には、有害センチュウを殺したり、数を抑制するような化学物質を発するものがあります。これらのセンチュウ対抗植物を畑に植え土の中に漉き込むことで、センチュウの数を減らすことができます。代表的なものに、イネ科のギニアグラス、エンバク、ソルゴーやマメ科のクロタラリア、タリムソクローパー、キク科のマリーゴールド等があります。
4. 土中の有機物を増やす：
完熟堆肥等を使って有機物の多い土づくりをすると、有機物をエサとする土壌生物が増加して、センチュウの天敵(トビムシ類、ダニ類、クマムシ類、アメーバー類)を増やす環境がつかれ、センチュウの被害を抑えることができます。
5. 農薬による予防：
ネコブセンチュウやシストセンチュウの予防を目的として、登録のある農薬を土壌に混ぜて使用し、発生を抑制します。

主なネコブセンチュウ防除剤の使用時期および使用方法一覧

薬剤	種類名	使用時期	使用方法
ガードホープ液剤	ホスチアゼン液剤	定植前, 生育期	種根茎・根鉢浸漬, 土壌灌注
ネマキック液剤	イミダホス液剤	定植前, 植付前, 生育期	全面液状散布後土壌混和, 土壌灌注
ネマキック粒剤	イミダホス粒剤	播種前, 植付前, 定植前	全面施用土壌混和
ネマクリン粒剤	フルオヒラム粒剤	播種前, 植付前	全面施用土壌混和
ネマショット粒剤	フルエンソホン粒剤	定植前, 植付前	全面施用土壌混和
ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼン粒剤	播種前, 植付前, 定植前	全面・作条施用土壌混和, 播種溝土壌混和, 生育期樹冠下処理
ネマトリン粒剤	ホスチアゼン粒剤	播種前, 植付前, 定植前	全面・作条施用土壌混和, 生育期樹冠下処理
ネマトリン粒剤10	ホスチアゼン粒剤	植付前	作条土壌混和
ネマモール乳剤	DCIP乳剤	定植前, 生育期	湛注覆土, 千鳥伏注入
ネマモール粒剤30	DCIP粒剤	定植前, 植付前	播種溝・全面施用土壌混和
バイデイトL粒剤	オキサミル粒剤	播種前, 植付前, 定植前	全面・作条・植溝施用土壌混和
バイデイトMK	オキサミル粒剤	播種前, 植付前	全面・植溝施用土壌混和
バストリア水和剤	ハズツリアヘトラス水和剤	定植前, 定植時	土壌表面散布後混和, 植穴土壌混和
ビーラム粒剤	フルオヒラム粒剤	植付前, 播種前	全面土壌混和
ラグビー-MC粒剤	カスサホスマイクラカセル粒剤	播種前, 植付前, 定植前	全面処理土壌混和
ランネット微粒剤F	マニル粉粒剤	播種前	全面土壌混和

※使用時期および使用方法のイメージを示すために総括的な表現をした。
登録作物毎に使用方法が異なるので実際の使用にあたっては必ずラベルを確認すること。